時の動き

能登半島大地震の教訓―避難計画は破綻した

地面が４ｍも隆起、道路ズタズタ、にげられない

たんぽぽ舎共同代表　柳田　真

２０２４年１月１日に能登半島大地震が発生

「大」とつけたのは、マグニチュード７・６の大きな地震だから。北陸電力志賀原子力発電所（停止中）が立地する石川県志賀町で震度７が記録された。

日本列島は地震大国（津波大国）であることが正月早々あらためて認識させられた日であった。

政府報道とマスコミ報道

原発を２基もつ北陸電力の問題点

地震発生からわずか１時間後、岸田内閣の林官房長官は記者会見で「志賀原発に現時点では異常は確認されていない（ウソだ）。」と発表した。それを受けて、マスコミ各社、テレビ各社も「原発に異常なし」と報じ続けた。

ところが翌日からモニタリングポストが15ヵ所も測定不能なこと、津波の高さが３ｍにも及んだこと、防護壁が津波に押されて５㎝も内側に歪んでいたことなど、いくつも原発関連の異常事態が次々とあらわになってきた。さらに、能登半島の主な道路はズタズタになり、通行できず港も津波や隆起で使えなくなっていた。

北陸電力の原発１、２号機も

どちらの変圧器も設備破損で絶縁油の大量流出が発生している。はじめの発表は量（数字）が小さく、のちになるとその「数倍以上の数字の発表」はいただけない。日本の電力会社のいつものやり方（失敗やミスを小さくみせる＝小さ目に発表する）ではあるが、これでは正確な現状認識ができず、まちがえてしまい、正しい対策にならない。

原子力規制委員会の対応の誤り

２０２３年に北陸電力は２号機の審査にあたって、活断層ではない、というデータを出し、原子力規制委員会がそれを認めるという〝間違い〟をおこした。が、今回の地震で活断層の存在も明らかになり、事実が証明されて、

規制委員会は大恥をかいた。

県の対応の誤り。ぬるさ、遅さ

石川県は前知事時代から長年、「地震の少ない地域」を売り込んで、もっぱら企業誘致をはかってきた。原発安全神話に毒されてきた。

いざマグニチュード7・6の大地震におそわれたあとも対応はぬるく、遅かった。

前震がおきつづけていたのだから、住民を守る県としてもうすこし「マシな対応」ができなかったのか、と思う。

今後の闘い方

1. 能登震央至近　珠洲原発計画　20数年前に止めた住職に感謝

当時の反対運動（円龍寺の住職塚本真如さんへ）―私たちの命を救ってくれてありがとう。各地から電話が多数あったという。

たんぽぽ舎の私たちもカンパを今後おくる予定だ。

2. 地震・津波列島の日本に原発は無理だ

能登半島大地震は自然界からの「最後の警告」だ。日本列島に住む人は心してこの警告を聞こう！　生きのびるために。自分と子どもとすべての人の未来のために。

3. 能登半島大地震のようなマグニチュード7・6の大地震がおそえば、日本のどの原発も耐えられない

地盤が４ｍも隆起すれば原発の配管はズタズタ、大火災と放射能大事故になる。

たとえば、茨城県東海村にある日本原電東海第二原発（沸とう水型１１０万ｋＷ）は大事故をおこし、わずか５時間半で東京に大量の放射能が着く。東京が放射能だらけのまちになってしまう。首都全滅である。

4. 最低でも、稼働中の原発を全部即時停止せよ

稼働準備中の原発（島根、女川、東海第二、柏崎刈羽6号、7号など）も即時中止せよ！　以上の方針で闘おう。

◎大阪の万博を中止

そのお金（大金）を、能登半島大地震の被害をうけた・住居を失った多くの人たちのために使えという新聞投書（声なき声）に賛成する。

◎国民よ！　決起せよ

激励文がたんぽぽ舎メールマガジンにきている。この声に真剣に応えたい。

「原発と心中する気か同胞よ」―埼玉県　岩瀬美知子（みっちゃん）

ここに及んでも「反原発」の大合唱が起こらないのはなぜ？

（やなぎだ　まこと）